

“自分を守る—家族を守る—地域を守る”

平成7(1995)年に発生した阪神・淡路大震災では、町内で409棟の建物の被害があり、11人が負傷しました。その後も平成23(2011)年の東日本大震災、平成28(2016)年の熊本地震など大規模な地震により、全国の広範囲で大きな被害が発生しています。

また、近年、記録的な豪雨、大きな台風の接近・上陸などにより、全国各地で自然災害による甚大な被害が続いています。

これまで、稲美町では大きな被害に至っていませんが、災害は、いつ・どこで・どのように発生するかわかりません。

防災白書によれば、阪神・淡路大震災の際に、救助の主体となった人のうち、約8割が地域住民だったことがわかっています。

住民の皆さんが、日頃から防災について関心を持つことで、自分や家族は自分で守る(自助)、自治会などの地域で力を合わせて守る(共助)ことが、災害の被害を最小限に留めることにつながります。

この防災マップは、風水害や地震など稲美町で想定される災害に対し、日頃からの備えやさまざまな防災情報について掲載しています。

ぜひ、ご自宅の目に付くところで保管していただき、日頃からご家族で話し合いながら、読み返してください。そして、平常時はもちろんのこと、いざというときにご活用ください。

地域で災害に備えましょう

P27「我が家の防災対策・防災情報」参照

■高齢者・病気の人

車いすやストレッチャーなどの移動用具が確保できない場合や急を要するときには、担架やおんぶなどにより避難させてください。また、病気の人の場合、使用している医療機材や医薬品を確保するようにしましょう。



■耳の不自由な人

大きく口を動かすなど身振りや筆談で状況を説明し、避難所へ誘導しましょう。



■目の不自由な人

「おてつだいしましょうか」などと、まず声をかけ、ゆっくり、はっきり、大きな声で話しましょう。誘導するときは、つえを持っていない腕のひじのあたりに軽くふれるか、腕を貸しながら半歩前をゆっくり歩いて誘導しましょう。



■車いすの利用者や足の不自由な人

それぞれの人に適した誘導方法を確認し、早めに避難させましょう。車いすの場合は、階段では必ず3人が協力し、上がる時は前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないようにしましょう。



■外国人 日本語での会話が十分理解できない場合は、簡単でわかりやすい表現で危険を伝え、避難所へ誘導しましょう。

洪水から素早く安全な場所に避難し、被害を最小限に抑えるため、避難場所や避難時の心得、災害の備えなどを、日頃から家族や地域の皆さんと話し合い、確認しておきましょう。また、家族や地域独自の情報なども追加しておきましょう。



手順1 自宅の危険度を確認しましょう。

自分の家のあるページで、自宅周辺が浸水した場合の浸水の深さを確認しましょう。

check!

洪水ハザードマップ(索引図)	P7~P8
洪水ハザードマップ	P9~P16
浸水継続時間	P17~P18
ため池ハザードマップ	P19~P20



手順2 避難所を確認しましょう。

自分の家から洪水時に避難できる最寄りの避難所を確認しましょう。確認した避難所を裏表紙やP30の防災メモに書き込んでおきましょう。

check!

避難所一覧	裏表紙
わが家の防災メモ	裏表紙
わが家の「防災・緊急情報メモ」	P30

災害の状況によっては、予定の避難所まで行けないことがあるため、そのときの避難所も確認する。



手順3 避難する道順について確認しましょう。

家族で話し合ったり、実際に歩いて避難経路を確認しハザードマップに書き込んでおきましょう。

水が深い場所や土砂災害の恐れのある場所を避けた避難経路を設定する。



手順4 実際に避難経路を歩いてみましょう。

設定した避難経路を実際に歩き、危険な場所などがあれば経路を見直しましょう。



手順5 災害情報面で日頃から災害に備えましょう。

- 避難行動…………… P3
- 稲美町が発令する避難情報… P4
- 大雨時の防災情報…………… P5~P6
- 避難時の心得…………… P6

